

新刊紹介

佛教の根本眞理

——佛教における根本眞理の

歴史的形態——

宮本 正尊 編

先に刊行せられた「大乘佛教の成立史的研究」(昭二九)の姉妹篇であつて、その序に示す如く、現代といふ思想的轉換の危機に於ては、傳統に立場をもつ佛教は、その歴史性と眞理性とを、もう一度ふるひにかけ吟味してみなければならなかつた。この姉妹篇は、その歴史性と眞理性との實證に佛教が耐え得ることを示し、來るべき時代の黎明に資する慶賀すべき書であつた。現下の日本佛教學界における各方面の權威を網羅しての、綜合研究の成果をまとめたものであつて、多角的な夫々が、一貫して一書を成してゐる。

本書は、これを四篇に分ち、以下その内容目次、執筆者を掲げると(敬稱略)

第一篇 佛教における根本眞理

第一章 佛教の眞實、中道と涅槃

第二章 般若と佛教の根本眞理
宮本 正尊

第三章 出家道と在家道とにおける眞理觀の相異
川田熊太郎

第四章 眞俗二諸説の構造
舟橋 一哉

第五章 菩薩思想の起源と展開
西 義雄

第六章 波羅密思想と他力觀
干潟 龍祥

第七章 戒律より見たる佛教眞理觀
梶芳 光運

第八章 阿毘達磨における眞理性
平川 彰

第九章 因明に及ぼした空觀の影響
渡邊 樸雄

第十章 佛教における賡理觀
中村 元

第十一章 印度諸學派の眞理觀と
末綱 恕一

第一篇 大乘佛教諸派の眞理觀
佛教 金倉 圓照

第一章 心識論と唯識説の發達
水野 弘元

第二章 中觀兩學派の對立とその

眞理觀
野澤 靜證

第三章 瑜伽行派における根本眞理
上田 義文

第四章 淨土經典の形成
春日井眞也

第五章 淨土教の眞理性
藤堂 恭俊

第六章 本願と淨土
結城 令聞

第七章 龍樹・世親における淨土思想
曾我 量深

第八章 密教における眞理觀の諸形態
山口 益

第九章 テベツト佛教における眞理觀
那須 政隆

第一、二節
長尾 雅人

第三節
芳村 修基

第三篇 中國佛教の形成と眞理觀
第一章 シナにおける佛法と王法
塚本 善隆

第二章 中國社會における佛教倫理の形態
道端 良秀

第三章 中國庶民生活と佛教倫理
小笠原宣秀

第四章 初期中國佛教者の禪觀の實態
横超 慧日

第五章 禪思想の中國の形態

增永 靈鳳

第六章 公案の歴史的発展型態における眞理性の問題

古田 紹欽

第七章 天台止觀の成立とその展開

關口 眞大

第八章 法華圓教教理論

故 福田 堯顯

第九章 法界緣起の歴史的形

坂本 幸男

第四篇 日本佛教の至境及び眞理觀

第一章 日本佛教の倫理性

遊龜 教授

第二章 日本佛教における戒律觀

西本 龍山

第三章 一乘思想の日本的展開

花山 信勝

第四章 密教の日本的形態

金山 穆韶

第五章 台密思想史上の慈覺大師

清永谷恭順

第六章 叡山における淨土教の形態

佐藤 哲英

第七章 法然の淨土教と佛教眞理

椎尾 辨匡

第八章 親鸞の他力信心

金子 大榮

第九章 自然法爾の開顯

梅原 眞隆

第十章 日蓮聖人の宗教に於ける

「事」の本質的構造 望月 敬厚

第十一章 正法眼藏の眞理觀

岡田 宜法

第十二章 道元禪師の佛面相承觀

山田 靈林

第十三章 道元の佛法

衛藤 卽應

等、となつてゐる。インド佛教の原型究明、中觀、瑜伽唯識、淨土教、密教の形態。次に中國佛教の特異な展開の様相。さらに日本佛教の圓熟せる諸教學の形態に至るまでを、概観しつつしてゐる。

先の「大乘佛教の成立史的研究」とともに、歴史的佛教の諸形態を知らうとするもの、現下の日本佛教學界の水準を知らうとするもの、かつ又、佛教學により良き水先案内を求めようとするものにつての、好箇の書である。

昭三一、十一月刊、A5版、一三二〇頁、三省堂、二〇〇〇圓 (白土)

佛教とは何か

マララセーカラ著

近藤 徹 稱譯

マララセーカラ博士はセイロンにおける第一流の佛教學者であり同時にセイロン佛教界の大立者である。この書は博士が別別の機會に發表した三つの小論を含む。その中、最初のそして、主要な一篇「佛教とは何か」(原題は「是の如く我聞けり—佛教教義撮要」)は著者が一九四三年セイロンに駐留していた聯合軍軍人を主な對象となしたラジオ放送の内容である。テーラヴァーダ佛教の正統教義を、やゝ「宗學者」的口吻をまじえて手際よく語つてゐる。相手が主として歐米人であることを意識してであらう。殊更にキリスト教義を引合いに出して佛教を語つてゐる點は、面白くもあるし、またわれわれにとつて言わずもがなの感を起さしめる場合もある。

第三篇をなすのは第三十二回世界佛教徒會議議長としての博士の講演で、セイロン佛教界の指導者としてのマララセーカラ師の面目を示すものである。師は力